

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0373200260
法人名	社会福祉法人 慈孝会
事業所名	グループホーム 麗の郷「なごみ」
所在地	二戸郡一戸町姉帯字下村24-1 (電話) 0195-36-5100

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3-19-1		
訪問調査日	平成19年11月13日	評価確定日	1月28日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 12月 20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	11 人, 非常勤 人, 常勤換算 7.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	700 円	
敷金	有() 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	210 円	昼食	263 円
	夕食	263 円	おやつ	64 円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	-名		
要介護5	-名	要支援2	-名		
年齢	平均 80.7歳	最低	71歳	最高	88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩手県立一戸病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の理念の中で重きを置いているのが、「礼節」であり、長年、(この土地などでの)社会貢献してきた方々(利用者)への感謝の気持ちや言葉遣いなどへの配慮が盛り込まれている理念を持ち、地域との関わりや地域に向けての福祉文化の発信が日常的になされている。個別の介護計画を作成し、経過が即座に把握できるよう工夫がなされ、職員全員で共有している体制である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	家族アンケートの実施等、指摘事項などの改善課題について、全員で理解し、取り組み、よりよいケアに繋げている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価に向けておのずと意識が高まり、自己評価についても職員全員で、1項目ごとに検証していき、自分たちのケアの振り返りのよい機会とし、積極的な取り組みのきっかけとしている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を開催し、そこで話し合われた内容を月末の職員会議(「なごみ会議」)で報告をし、日々のケアに活かしている。運営推進会議の進行が、事業所からの報告をする形で主に行われているが、運営推進会議をより一層、地域や市町村との交流のきっかけとなるよう、工夫して企画していくことが必要と思われる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	必要に応じて、電話で状況の報告・連絡を取っている。また、毎月の広報誌「なごみ便り」には利用者の様子を写真入りで掲載して、見て頂いたり、利用者各個人にアルバムを渡して、本人が好きな写真を貼ってもらい、家族の来訪時にそれぞれで見られている。基本的には金銭について預りはしていないが、必要なときには、対応することもある。家族アンケートを年1回ずつ、行っており日常業務等に反映している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目 ④	ボランティアの受入れを行ったりしているほか、自治会にも加入し、町内行事へも積極的に参加している。夏祭りを老人クラブ、婦人会、消防署で共同参画しており、ホーム敷地内を祭事場所として提供した。近隣の方は野菜も分けてくれたり、通りかかると声もかけてくれたりと、地域に溶け込んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念の中で重きを置いているのが、「礼節」であり、長年、(この土地などでの)社会貢献してきた方々(利用者)への感謝の気持ちや言葉遣いなどへの配慮が盛り込まれている理念であり、地域との関わりや地域に向けての福祉文化の発信が日常的になされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「礼節」等について接遇委員会を設置するなど、意識的に職員全員で取り組みを起している。朝のミーティング時等に理念の唱和を行い、常に振り返り意識しながらケアに役立っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアの受入れを行ったりしている。自治会にも加入し、町内行事へも積極的に参加している。夏祭りを老人クラブ、婦人会、消防署で共同参画しており、ホーム敷地内を祭事場所として提供した。近隣の方は野菜も分けてくれたり、通りかかると声もかけてくれたりと、地域に溶け込んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に関してはあまり振り返りは今までは無かったが、外部評価に向けておのずと意識が高まり、職員全員で、1項目ごとに検証していき、自分たちのケアの振り返りのよい機会となった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、そこで話し合われた内容を月末の職員会議(「なごみ会議」)で報告をし、日々のケアに活かしている。	○	運営推進会議進行が、事業所からの報告をする形で主に行われているが、運営推進会議をより一層、地域や市町村との交流のきっかけとなるよう、工夫して企画していくことが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	二戸広域事務組合が担当する地域で、包括支援センターも兼任しており、運営推進会議以外でも行き来する機会を持っている。法人の理事長をはじめとして、グループホーム職員も雇用促進センターで講師をするなど、法人全体として協力体制を整えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	必要に応じて、電話で状況の報告・連絡を行っている。毎月の広報誌「なごみ便り」には利用者の様子を写真入りで掲載して、見ていただいている。また利用者各個人にアルバムを渡して、本人が好きな写真を貼ってもらい、家族の来訪時にそれぞれで見てもらっている。基本的には金銭については預りはしていないが必要なときには、対応をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを年1回ずつ行っており日常業務等に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員も1箇所にだけ長期間の勤務であると体外的な接触が少なく、また、新しい空気が、なかなか感じづらいので、ある一定のサイクルでの異動は考えている。その際には、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な学ぶ機会を職員平等に与えている。職員の段階に応じた内外の研修・学習会に参加している。復命書にて確認した。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の全体会は2ヶ月に1回、また県北ブロックの定例会も2ヶ月に1回開催されているので、実質毎月、他事業所と交流を持つ機会がある。様々な相互研修の予定がある。	○	他事業所との交換研修(交流研修)の予定があるが、まだ具体的に煮詰まってきたくないようなので、自分たちのグループホームの様々な振り返りのきっかけと出来るよう、早期に実現することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ディサービス利用者が、ディサービス利用時間内にグループホームで過ごす時間をつくるなどして、馴染みの関係を作ったケースや併設法人のショートステイを利用しながら、グループホームとも行き来し利用開始した方もいる。サービス利用の開始については馴染みの関係づくりを大切にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	基本は、「好きなように」生活してもらい、職員はそんな自由な生活の少しお手伝いが出来ればいいと考えている。共に笑ったり等、感情の共有をしながら、生活を営んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者は、介護支援専門員の研修時にセンター方式を学び、利用前のサービス提供担当者会議等で得た情報等をまず活かしながら、センター方式活用の準備をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人を取り巻く様々な人たちの協力を得ながら計画作成を行っている。利用者の馴染みの美容師の方に来訪してもらい、整髪をしてもらったりなど、利用者本人はもとより家族の意見等も活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	転倒の危険性があった方には、関係機関の方のアドバイスやケアカンファレンスでよく話し合いするなどしてケアプランを変更したりした。毎月の会議のほか、3ヶ月や6ヶ月ごとにカンファレンスを行い、変化のある場合は家族にも連絡を取っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	いろいろな情報収集等は、グループホーム協会を通じて行っている。歯科医による訪問診療も実施しており、口腔ケアについても積極的に行っている。また、ふるさと訪問も可能な限り実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に受診支援した時などは、家族には電話で連絡をし、速やかな報告や、情報交換を行っている。また、かかりつけ医からの情報や服薬等の連絡事項等は、家族へ連絡後、日誌記載→ケース記録への記載と、連動しており、情報の整理も出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては、契約書にも謳(ウタ)われているように併設の特別養護老人ホームでの対応を行っている。しかし、職員は勉強会等を行い、終末期への意識共有を図っている。対応出来るギリギリのところまでは、対応していきたい意思を持っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報等はカーテンで目隠しされたところに保管されている。個人の情報を必要に応じて使用する場合は、利用者家族等に同意書を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースで、好きなようにやって頂いている。思い思いの暮らしを営むことで、自然に笑いや会話も弾んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材等は併設の事業所に利用者と一緒に、外の空気を吸いながら取りにいくのが日課のようにになっている。献立の放送が、併設法人から流れてくるが、グループホームではその気分で配達食材をキャンセルし、好きな物を作って食べることもある。郷土料理の「はっと」の味付けは利用者は、非常に上手である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルから、健康チェック表をもとに入浴可否基準としている。入浴拒否への対応は、1時間くらいお部屋に行き話し込んで、その気になって貰ったならば、入浴時間過ぎていても入浴対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カーテンの開閉をすることを日課としている人、畑仕事や畑の草取り、また冬期間は雪掻きなど行ったりしている方もおり、個々の役割を意識している方には見守りし、意思を尊重している。また楽しみごととして、テーブルを2つ付けて卓球をしたり、ピアノを弾いたりする方、カルタが好きな方もいて、思いを汲み、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の馴染みの商店に買物に出掛けたり、月に1度「通院デイ」として、通院以外の方も、同行外出し、外食してきたり、その外出が少人数のときは帰りに買物してきたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の時間帯は鍵を掛けていない。居間からテラスへの出入口のガラス戸の鍵は開閉できる利用者がおり、出入りすることがあるが、外出傾向のある方には制止せず、付き添い見守り支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回は、消防署立会いで法人全体で行っているほか、グループホームでは毎月1回避難訓練を行っている。グループホーム内では、「訓練」という雰囲気を出さないように、本番さながらで取り組んでいる。「火事だ！逃げるよ！」という緊迫感を持った雰囲気で行い、消防団にも協力を得ている。3分以内で脱出出来るようになった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設法人の栄養士に献立を立ててもらっている。水分摂取については水分摂取チェック表で、日々、細かく確認している。1000ccを水分摂取の目安としている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓があり、上方からの採光も良い造りとなっている。食事の時のテーブルの配置も、利用者の使い勝手に合った配置となっている。居間の窓は大きく外の景色がきれいに見える。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に、床はフローリングになっており、ベッドが配置されているが、畳の間の方もいる。自分で描いた塗り絵や写真が飾られてある。利用者の馴染みのものの持ち込みは声掛けしている。	○	利用者が長年愛用しているものや馴染みの品を多く持ってきてもらえるように、今後も家族への働きかけを行って欲しい。